

第25期・第6回 薬学委員会 生物系薬学分科会 議事録【提出用】

日時 令和5年1月13日（金）11:30～12:30

場所 日本学術会議5-A（1）（2）会議室

参加者 分科会委員9名 遠藤、山崎、一條、深見、赤羽、藤田、内山、長野、三澤

議題

(1-1) 令和4（2022）年度生物系薬学分科会シンポジウムについて
本日に開催される令和4（2022）年度生物系薬学分科会シンポジウム「新興・再興感染症の克服に挑む～COVID-19との闘いを経て～」について、実行委員長である赤羽委員より、オンラインも併用したハイブリッド形式にて開催すること、事前参加者登録者は、会場での参加希望者が35名、オンラインでの参加予定者が160名の合計200名ほどであることが報告された。また講演者全員が会場にて講演することが報告された。

1. COVID-19感染症重症化／合併症の基礎メカニズム解明から創薬応用へ
医薬基盤・健康・栄養研究所 今井 由美子 先生
2. 抗ウイルス薬開発の新たな展開：次のパンデミックに対する更なる備え
東京大学新世代感染症センター（UTOPIA） 井上 純一郎 先生
3. 新興感染症と新たなワクチンのデザイン：100日でワクチンを世界に届けるには
東京大学医科学研究所 石井 健 先生
4. COVID-19がもたらした我が国のレギュラトリー・サイエンスの進歩
医薬品医療機器総合機構 宇津 忍 先生
5. サイレントパンデミックとしての薬剤耐性菌問題（AMR）とワンヘルスアプローチ
東邦大学医学部 舘田 一博 先生
6. 人獣共通感染症の克服を目指して 一次のパンデミックにどう備えるか
北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 喜田 宏 先生

(1-2) 今後のシンポジウムについて

今後のシンポジウムの開催頻度・開催時期などに関して討議がなされた。開催時期に関しては、これまで通り1月に開催ということも一案としてはあるが、その時期、テーマ、実行委員長等については次回の本分科会（6月頃を予定）で方向性を決めることになった。なお、シンポジウムの継続的な開催のためにも分科会委員の増員が必要であることが確認され、本年10月までに決定される次期会員・次期連携会員の選出後に、本分科会に相応しいメンバーを積極的にリクルートすることで合意がなされた。

(2) その他

会員・連携会員の選考に関する現状に関して、第二部会員である遠藤委員と山崎委員より現状でわかっていることに関して説明がなされた。また次回の分科会の開催日程に関しては6月頃を開催することとし、具体的な日時は今後日程調整をして決めることとなった。

(3) 次回の日程など

2023年6月頃 (場所未定)

配付資料

- ・生物系薬学分科会委員リスト
- ・シンポジウム抄録集
- ・声明『内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます』